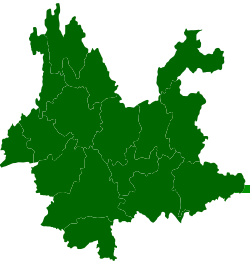




# 中国西南民族史

---

## 2. 秦漢～魏晉南朝： 西南夷の「発見」と南中社会の成立②



# 文献から見た「滇人」

---

## ① 氐羌説

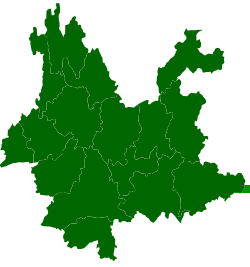
- 『史記』西羌伝中の羌王の名「滇零」「滇吾」
- 西南夷列伝「皆氐類也」

## ② 僰(ぼく)説

- 『史記』貨殖列伝「滇僰、僰僮」 (史料2.3)

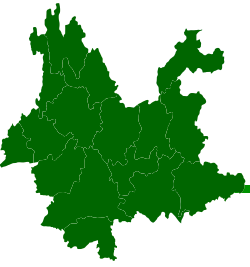
## ③ 濮(ぼく)説

- 『華陽国志』南中志に「滇濮」



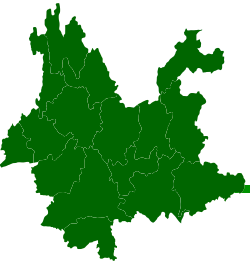
# 中国西南の古代民族(大分類)

- **氐羌**(てい・きょう) (≡チベット・ビルマ語族)
  - 本拠は西北 甘・青高原／土着説と南下移住説
- **百越** (≡壮侗語族(≡タイ系))
  - 東南沿海地帯中心／西進移住説と土着説
- **盤瓠**(ばんこ) (「三苗」「苗民」) (≡苗・瑶語族)
  - 原住地は長江中下流域／雲南への進入は歴史時代
- **濮**(ぼく) **人** (≡モン・クメール語族)
  - 元来中国西南部に広く分布／インドシナ半島へ南下



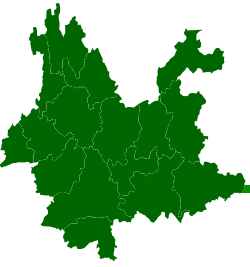
# 文献史学上での「滇」の扱い

- 後代の雲南民族の系統とどう関連づけるか？
  - 漢代：「滇」 「昆明」
  - 唐代：「白蛮」 「烏蛮」
  - 元代：「白人(僂人)」 「羅羅」
  - 明清：「白人／民家」 「羅羅／夷」
  - 現代：「白族」 「彝族」



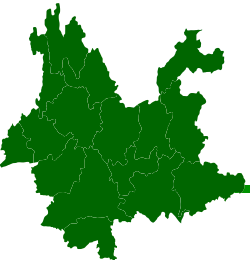
# 馬曜・王叔武説(『雲南簡史』『白族簡史』)

- 滇は『史記』貨殖列伝「滇僂、僂僮」から**僂人**
- 後漢の「叟」、六朝の「爨」の主力も**僂人**
- 唐代(南詔国時代)に「西爨白蛮」を強制移住  
→雲南西部に分布が移動
- 元代「白人」「僂人」・明清「民家」現代「白族」
  
- もうひとつの系統:  
漢代「昆明」→唐代「烏蛮」→明～「羅羅」→彝族  
と対比的に考える



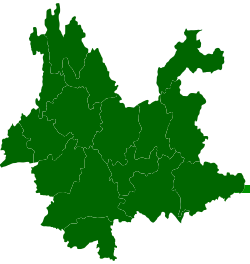
## 尤中説(『中国西南的古代民族』等)

- 新石器時代末期以後, 雲南民族の分布に**大きな変動**(「民族移動」)は生じていない
- 雲南中部の「坝子」に原住する農耕民=**棘人**
  - 「滇」「西爨白蛮」
  - おおよび元代以後の「白人」もすべて同じ民族
  - 現代の白族



## 方国瑜・林超民説(「僂人的族属与迁徙」)

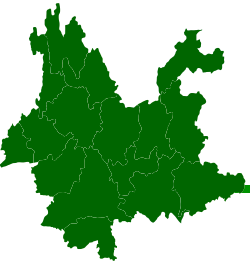
- **僂人**は四川東南部(宜賓地区)から雲南東北を經由して六朝頃に 洱海地区に到達
- 滇人→叟人→西爨白蛮(のちの彝族の先民)とは別系統
- 南詔国が洱海地区を統一して以降, その地の諸民族が融合して「**白人**」(→**白族**)を形成



# なぜ「僊人」が重要なのか

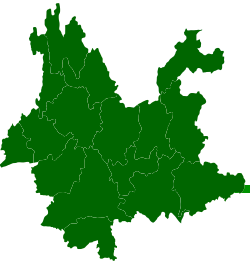
- 『西南夷列伝』には記載がない(冒頭の民族分布)
- 金印を与えられて後の滇国(および滇人)の動向が史料に記述されていない(どこかに結びつける必要)
- 元代の『雲南志略』に元代の「白人(僊人)」を結びつける記載 (史料2.4)
- 秦代の「僊侯国」について、「夷中最仁」であるがゆえに「字従人」という記載がある(『水経注』江水)





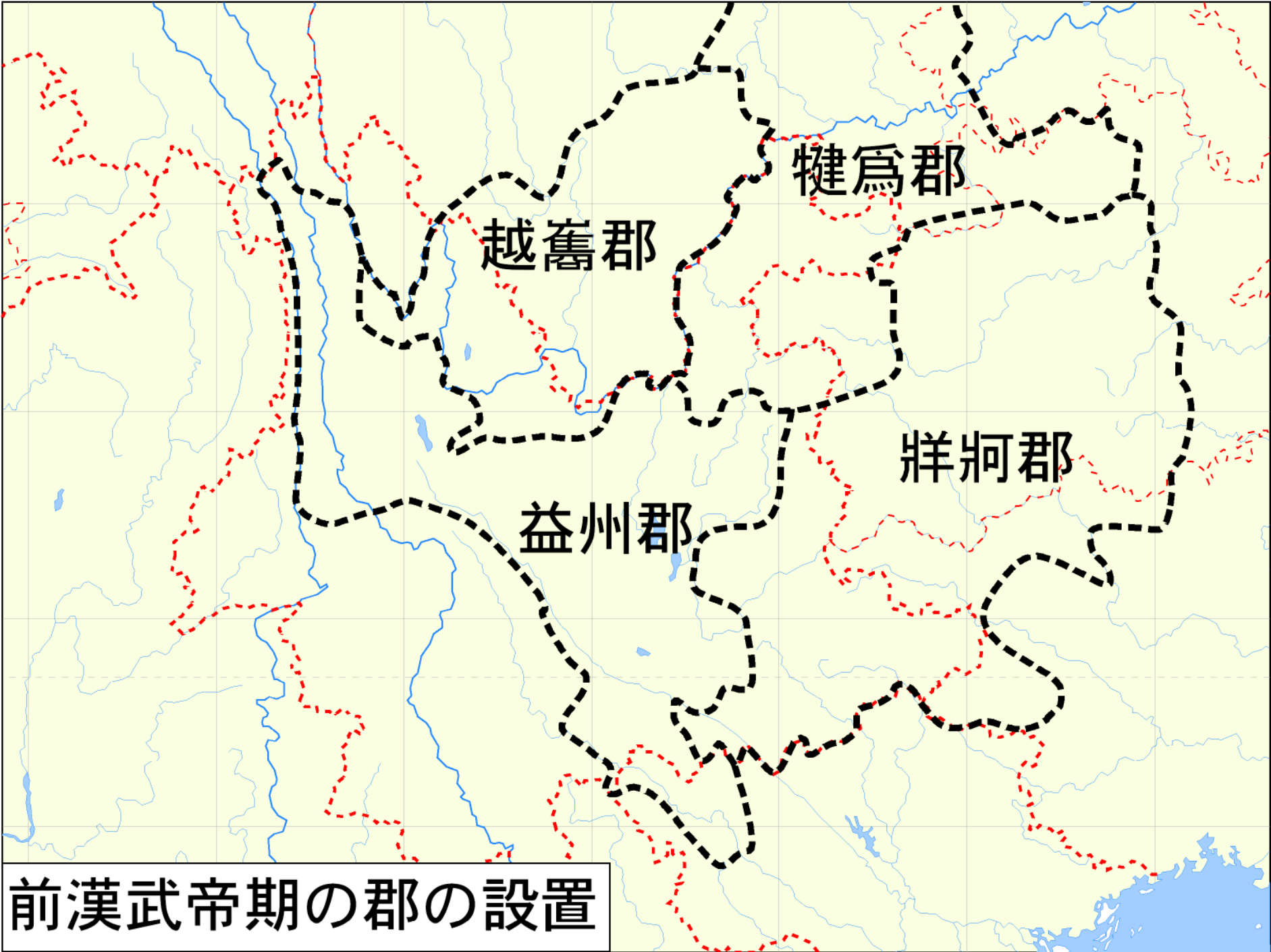
# 滇=僊説の問題点

- 民族移動を直接示す史料が存在しない
- 両者を結びつける直接の論拠は『史記』貨殖列伝のみ
- 貨殖列伝では「南御滇、僊，僊僮。西近邛、笮，笮馬、旄牛。」となっていて、「邛、笮」と対になるのだから「滇、僊」と並列でなければおかしい(滇≠僊)

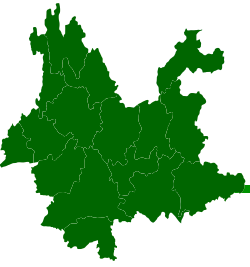


# 武帝による西南四郡設置

- 犍為(けんい)郡 ← もとの僰侯国が中心
- 益州郡 ← 滇国
- 牂牁(そうか)郡 ← 夜郎
- 越巂(えっすい)郡 ← 邛都



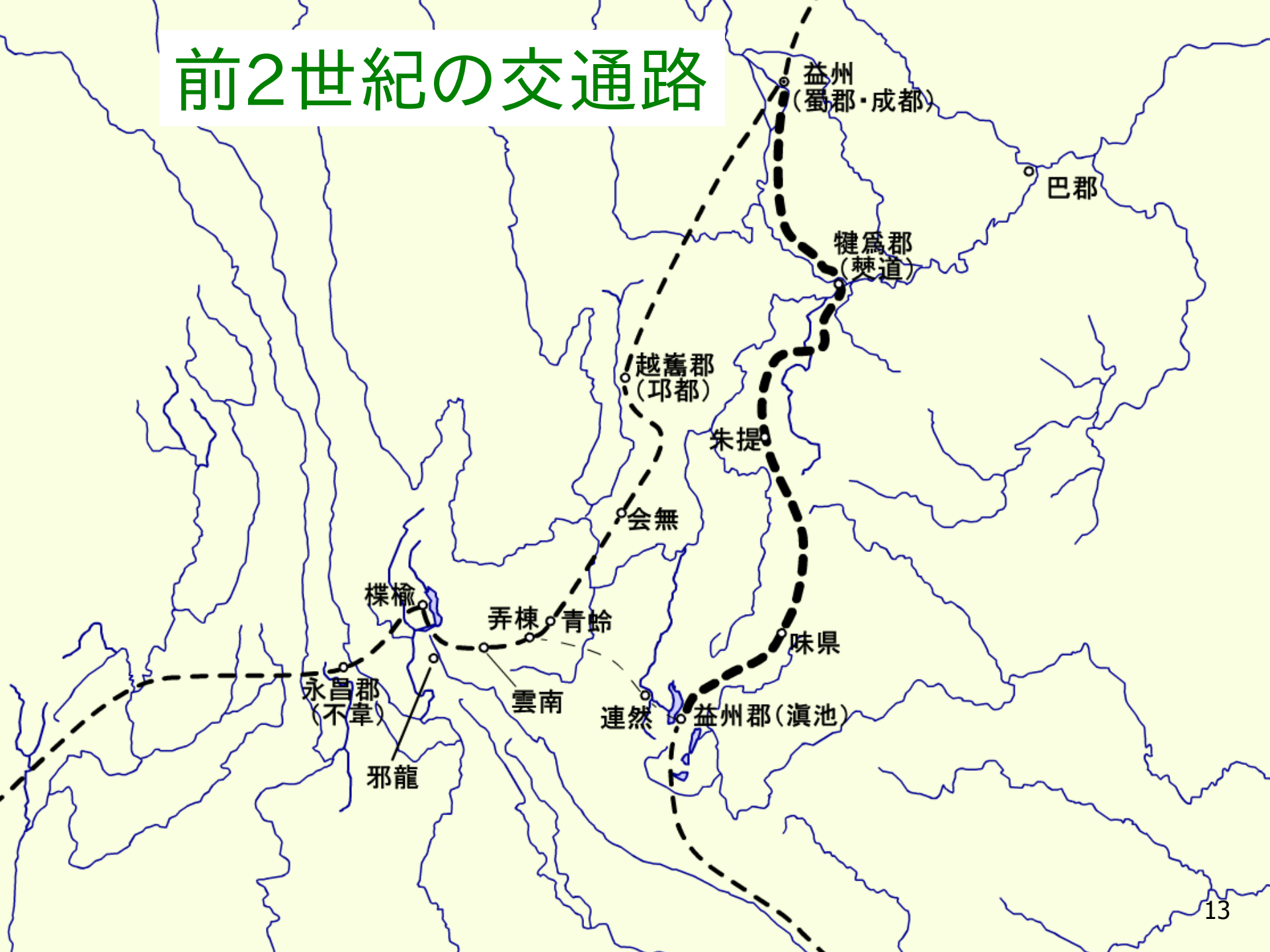
前漢武帝期の郡の設置

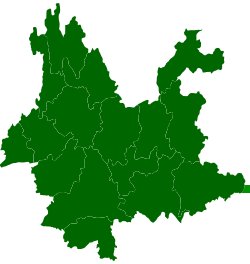


# 郡県の設置と漢人の流入

- 滇国はいつ滅びたか？  
金印が墓から出土→武帝期の直後？
  - 雲南民族の「漢化」：  
滇池地域の墓葬，紀元前後より完全に漢式墓  
(梁堆) に取って代わる
- 滇人も当時の漢人に「同化して消滅」した  
可能性(≡滇人，と呼ばれなくなっただけ?)

# 前2世紀の交通路

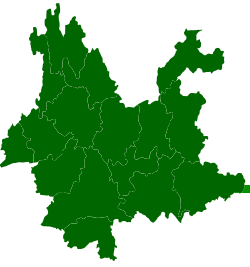




# 雲南西部に関する知識

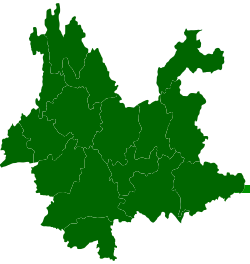
---

- 前漢時期：漢使／滇使は「昆明」に阻まれた
- 司馬遷自身も雲南には入っていない
  
- 西南夷列伝の  
「其外西自同師以東，北至牂榆，名為雋、昆明」  
という一文をどう解釈するか？



# 其外西自同師以東, 北至牂榆

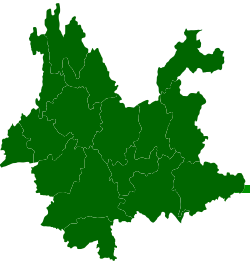
- 「同師以東」は, 唐蒙のくだりの「南越以財物役屬夜郎, 西至同師」によるもの  
= 犍為 → 南越ルート開発中に知り得た最西端の地名
- 「北至牂榆」は, 司馬相如列伝の「略定西夷, 邛、笮、丹駘、斯榆之君皆請為内臣」によるもの  
= 成都から南下して雲南西部を目指すルートの開発中に知り得た最南端の地名 (史料 2.3)
- いずれも漢使が直接訪れた土地ではない



# 「随畜遷徙, 毋常処, 毋君長」

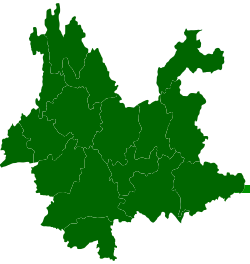
- 「嵩、昆明」に関するこれらの記述の根拠？  
「至滇, 滇王嘗羌乃留, 為求道西十余輩。歳余, 皆閉昆明, 莫能通身毒國。」
- 滇王は漢使を西に向かわせなかった  
＝漢使は「昆明」に接触していない
- 結局これらの「風俗」に関する記述も滇国における？ 伝聞





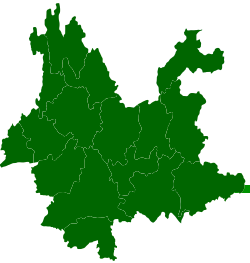
# 洱海地区の考古学的調査

- 1939～1941 吳金鼎・曾昭燏らが蒼山（洱海西側の山脈）の緩斜面上，溪流辺に位置する馬龍・仏頂など新石器時代の遺址を調査（《雲南蒼洱境考古報告》）
- 各遺跡には4, 5～10の平台（発掘の結果，住居址および耕地の2種が含まれると判明）
- 馬龍遺址からは500件余の石器と陶器が出土



# 大理銀梭島貝丘遺址

- 2003年9月～04年5月／2007年2月に発掘
- 洱海東南に位置する小島
- 最大6.8mに達する堆積(5000年前～紀元前後)
- 中上層に大量の貝殻(主に巻貝)と遺物を含む
- 巻貝の多くは人によって尾部を割られ, 食用に供されたことがわかる
- 巻貝・二枚貝・魚・蝦などの採集が生業
- 長期の安定した定住生活



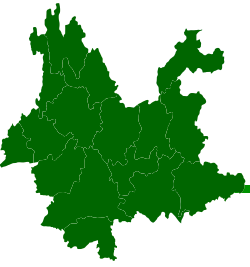
# 大理銀梭島貝丘遺址

## ■ 解説記事 (Webページ)

■ 「銀梭島貝丘遺址考古发掘」 <http://www.dlsbwg.com/detail.asp?id=25>

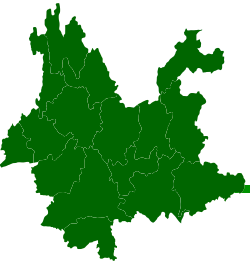
■ 「大理銀梭島貝丘遺址(云南日报网)」 [http://paper.yunnan.cn/html/20070309/news\\_93\\_31884.htm](http://paper.yunnan.cn/html/20070309/news_93_31884.htm)

など



# 剣川海門口遺址

- 5000～2500年前の遺址
- 1957年に発見, 1978年に第二次発掘
- 2008年に第三次発掘
  - 出土遺物3000件余, 陶器・石器・骨器・牙器・木器・銅器・鉄器・動物骨格・農作物の遺存など
  - 遺跡には建物跡・火堆(かまど)・木柱・横木・灰白色の石塊・人骨坑・柱洞など
  - 大量の干欄式(高床式)建築の木柱(4000本以上)が出土



# 劍川海門口遺址

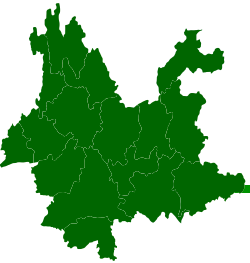
---

- 第三次発掘の報告:

《云南剑川县海门口遗址第三次发掘》

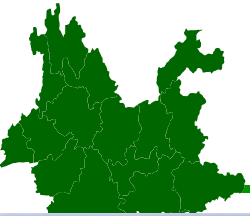
《考古》2009年第8期

を参照。



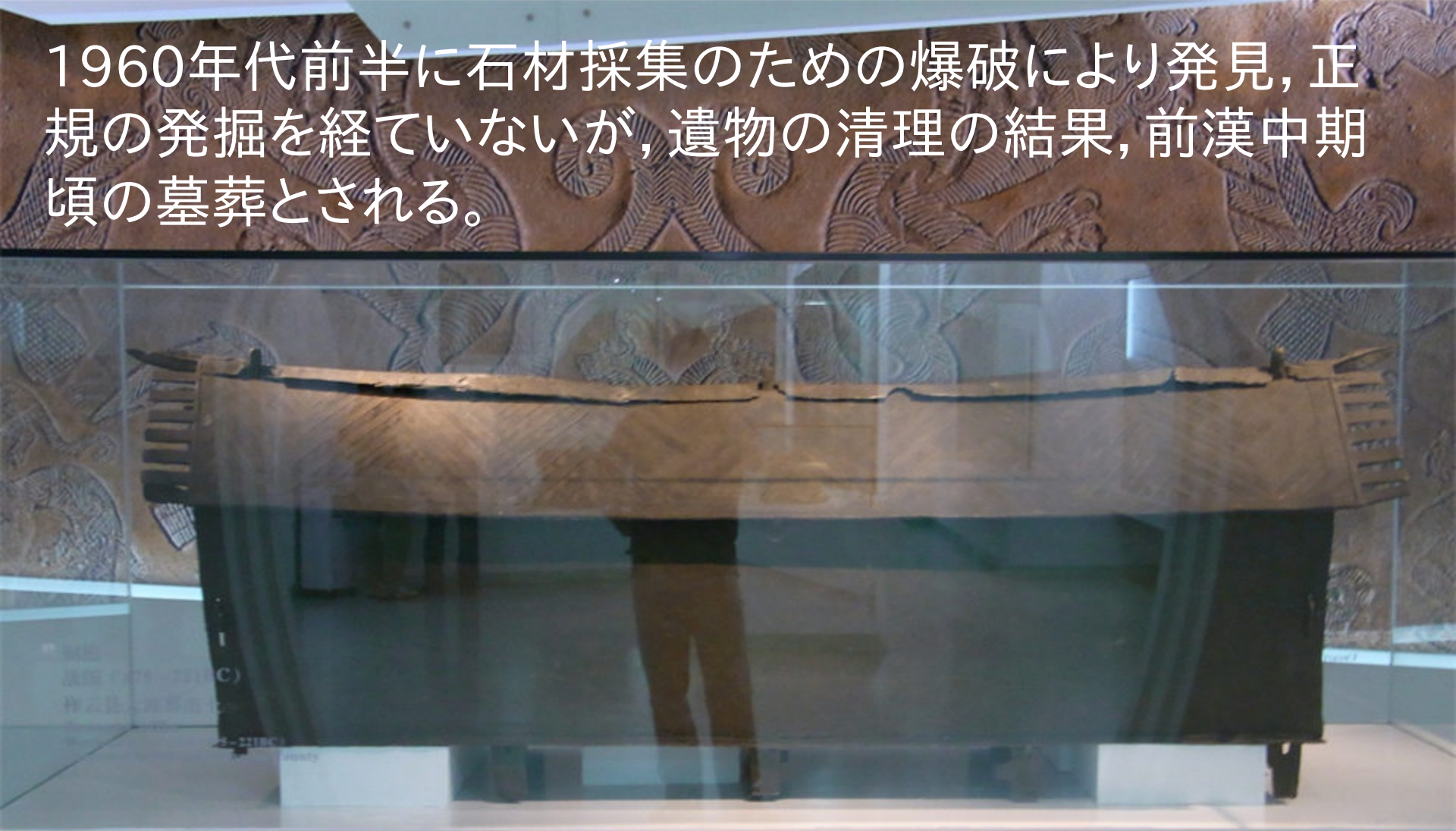
# 剣川海門口遺址

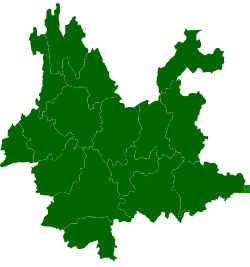
- 集落遺址の中から炭化した稲・麦・粟などの農作物の遺存が出土
- 稲と麦が共存
- 四枚歯の木耜などの生産工具
- 第2次発掘時にも石製生産工具150点余が出土
  
- 先史時代の湖畔に暮らす農業民の聚落
- 一定規模の農業生産／農業以外に狩猟・漁撈も



# 祥雲大波那木槨銅棺墓の銅棺

1960年代前半に石材採集のための爆破により発見，正規の発掘を経ていないが，遺物の清理の結果，前漢中期頃の墓葬とされる。

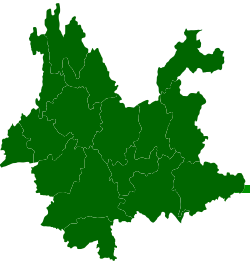




# 賓川白羊村遺址

- 1970年代に発見・発掘
- 河岸の台地上に11の家屋の基台が出土
- C<sup>14</sup>測定によると3770±85年
- 灰白色の穀物粉・稲のもみから・稲藁の痕跡等が家屋遺跡の周辺で発見される
- さらに猪(豚)・犬・牛・羊等の家畜の遺骨も発見
- 当時の洱海地区の居民がすでに定住農耕生活を行っていたことを反映





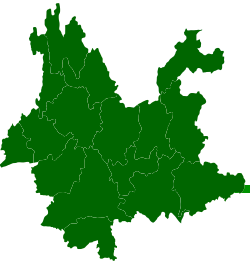
# 洱海地区の考古文化

- 漁撈を中心とする銀梭島人
- 農耕が主・家畜飼養を副とする賓川白羊村人
- 農業・漁撈併用の劍川海門口人
- 農業を主とする仏頂人・馬龍人

→ 独自の農耕／漁撈文化

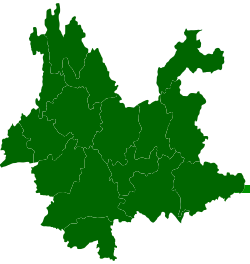
「遊牧を主とする」昆明人の文化とは別

時間的には滇池地区よりもむしろ早期に発達



# 洱海地区の農耕・漁撈文化の位置づけ

- 80年代～90年代初の中国研究者：  
「史料上のどの古代民族に当てはめるか」  
(僂人が注目された原因のひとつでもある)
- しかし、上述の分析から、司馬遷(および前漢時代の中原漢人)が雲南西部の住人に関する知識を持っていなかったことは確か



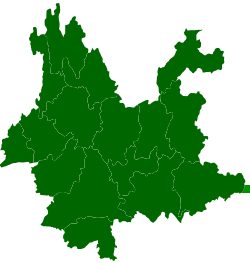
# 「古代洱海人」の提唱

- 無理に史料中の民族名を割り振るのではなく、作業概念として「古代洱海人」とでも呼んだらどうか

(林の雲南大学に提出した博士論文

《白族的形成及其对周围民族的影响》(1995))

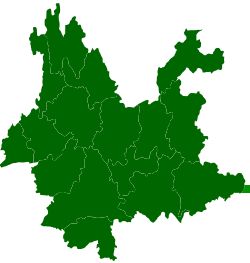
→「洱海人」「洱滨人」として中国研究者に採用され通説になる



# 馬曜 《白族异源同流说》

- 最早活动于洱海周围的“洱滨人”，他们不是滇僰人，而是“西洱河蛮”的前身……

……《史记·西南夷列传》只提到滇池以西随畜迁徙的“昆明”人，没有记载洱海周围的平坝地区的农耕民族。日本学者林谦一郎在其《白族的形成及其对周围民族的影响》（云南大学博士论文）中，把上述洱海周围的农耕民族称为“古代洱海人”。由于他们分布北到剑川、东到宾川、南到弥渡、祥云，似称为“洱滨人”较为恰当。



## 《雲南通史》第三卷(p.141)

- ……从文献资料和近年来的考古资料来看，我们可以肯定，在洱海地区确实存在一个被司马迁《史记·西南夷列传》漏记的族类，他们与“毋常处”的昆明不是同一族类，而是从事定居农业生产的居民，我们把他们称为“洱海人。”<sup>④</sup>

④ 林谦一郎：《白族的形成及其对周围民族的影响》，云南大学1995年博士学位论文，第22页。